

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	信託期間は1999年6月22日から無期限です。	
運用方針	主として、ジャパン・グロース マザーファンドの受益証券への投資を通じて、わが国の株式を中心に投資します。短期的な市場動向に左右されず、独自の調査に基づいたファンダメンタル重視の投資を行い、将来の資産価値極大化をめざした中長期的な視点からの運用を行うことを基本方針とします。	
主要運用対象	ジャパン・グロース・ファンド	下記のマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	ジャパン・グロースマザーファンド	わが国の株式を主要投資対象とします。
組入制限	ジャパン・グロース・ファンド	株式への実質投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
	ジャパン・グロースマザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。
分配方針	原則として、毎年6月21日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益の分配を行います。分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益及び売買益等の全額とします。分配金額については、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

## ジャパン・グロース・ファンド (愛称:得意技)

### 運用報告書(全体版)

第24期(決算日 2023年6月21日)

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申しあげます。さて、当ファンドはこのたび上記の決算を行いましたので、ここに期中の運用状況をご報告申しあげます。今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申しあげます。

### 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

〒105-0011 東京都港区芝公園一丁目1番1号

ホームページ <https://www.smtam.jp/>

- 口座残高など、お客さまのお取引内容についてのお問い合わせ  
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当運用報告書についてのお問い合わせ  
フリーダイヤル:0120-668001  
(受付時間は営業日の午前9時～午後5時です。)

**【本運用報告書の記載について】**

- ・ 基準価額および税込分配金は1万口当たりで表記しています。
- ・ 原則として、数量、額面、金額の表記未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。
- ・ 一印は、組入、異動等の該当がないことを示します。
- ・ 指数に関する著作権等の知的財産権およびその他の一切の権利は指数の開発元もしくは公表元に帰属します。

## 最近5期の運用実績

決算期	基準価額			参考指数		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税込分配金	期中騰落率	期中騰落率	期中騰落率			
第20期(2019年6月21日)	円 9,492	円 0	% △16.3	1,545.90	% △11.7	% 94.9	% 4.0	百万円 1,731
第21期(2020年6月22日)	10,306	150	10.2	1,579.09	2.1	95.3	3.2	1,683
第22期(2021年6月21日)	12,143	550	23.2	1,899.45	20.3	95.8	3.9	1,674
第23期(2022年6月21日)	11,337	0	△6.6	1,856.20	△2.3	93.8	3.6	1,468
第24期(2023年6月21日)	13,716	550	25.8	2,295.01	23.6	97.9	—	1,638

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 株式先物比率は「買建比率－売建比率」で算出しております。

## 当期中の基準価額と市況の推移

年月日	基準価額		参考指数		株式組入比率	株式先物比率
	騰落率	騰落率	騰落率	騰落率		
(当期首) 2022年 6月21日	円 11,337	% —	1,856.20	% —	% 93.8	% 3.6
6月末	11,417	0.7	1,870.82	0.8	93.8	3.6
7月末	11,930	5.2	1,940.31	4.5	94.2	3.6
8月末	12,245	8.0	1,963.16	5.8	94.2	3.6
9月末	11,481	1.3	1,835.94	△1.1	93.6	3.6
10月末	12,195	7.6	1,929.43	3.9	97.4	1.4
11月末	12,459	9.9	1,985.57	7.0	97.0	1.4
12月末	11,525	1.7	1,891.71	1.9	96.2	1.5
2023年 1月末	11,900	5.0	1,975.27	6.4	97.2	1.5
2月末	11,959	5.5	1,993.28	7.4	97.4	1.5
3月末	12,343	8.9	2,003.50	7.9	97.0	0.7
4月末	12,486	10.1	2,057.48	10.8	97.6	0.8
5月末	13,247	16.8	2,130.63	14.8	98.0	0.8
(当期末) 2023年 6月21日	14,266	25.8	2,295.01	23.6	97.9	—

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

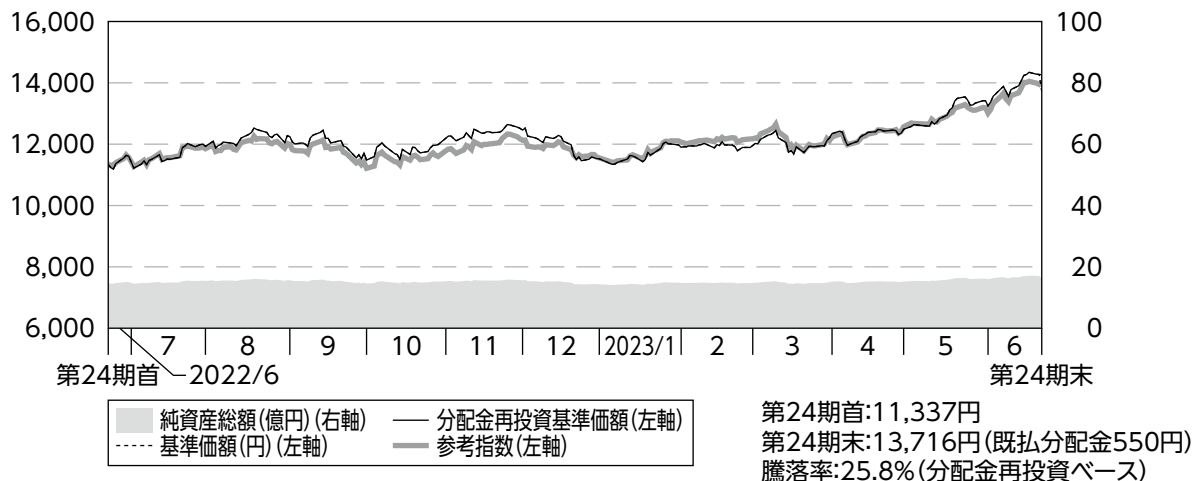
(注3) 株式先物比率は「買建比率－売建比率」で算出しております。

## 参考指数は、TOPIX(東証株価指数)です。

「TOPIX(東証株価指数)」とは、株式会社 J P X 総研が算出、公表する指数で、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。同指数の指数値及び同指数に係る標章又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社(以下「J P X」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び同指数に係る標章又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、同指数の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P X により提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても J P X は責任を負いません。

## 当期中の運用経過と今後の運用方針

### 基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額及び参考指数は、2022年6月21日の値を基準価額に合わせて指数化しています。

### 基準価額の主な変動要因

当期末の基準価額は、期首比で上昇しました。

期初から2022年末にかけては、堅調な業績動向が確認された銘柄が評価された一方、欧米の金融引き締め長期化や景気減速懸念の高まりが株価のマイナス要因となり、基準価額は上下する展開となりました。2023年に入ると、日銀の金融緩和継続期待の高まりや為替の円安が下支え要因となり堅調に推移しました。期末にかけては、良好な決算を発表した銘柄や、米半導体メーカーの好決算を受けて業績改善期待が高まった銘柄などが評価され、基準価額は上昇基調が続きました。

投資銘柄のうち、半導体のテスト需要の拡大が期待されるアドバンテスト、株主還元への拡充が好感された三菱商事などの株価上昇がプラスに寄与しました。一方、グローバル景気の減速を受けて製品需要に悪影響が生じると懸念されたデクセリアルズ、市場予想を下回る決算が嫌気された日本M&Aセンターホールディングスなどの株価下落がマイナスに影響しました。

## 投資環境



国内株式市場は上昇しました。

期初から2022年後半にかけて、欧米の金融引き締め動向に一喜一憂する展開となりました。年末にかけては、低下基調の米物価指標は好感されたものの、日銀の長期金利変動許容幅拡大が嫌気される展開となりました。2023年に入ると、米金融引き締め長期化懸念の後退や、次期日銀総裁候補が金融緩和継続の方針を示したことが好感され上昇しました。3月には、米地銀の経営破綻を背景に市場心理が悪化する場面がありましたが、各国当局の迅速な対応により事態の深刻化は避けられました。期末にかけては、日銀の金融緩和継続や、為替の円安、堅調な企業決算が市場の下支え要因となり堅調な展開となりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

株式への投資は「ジャパン・グロース マザーファンド」の組み入れにより行いました。

### 【「ジャパン・グロース マザーファンド」の運用経過】

当期は、電気機器などの構成比を引き上げた一方、サービス業などの構成比を引き下げました。

個別銘柄では、原料高を受けた価格転嫁の進展に伴い業績改善が見込まれる日本ペイントホールディングス、多面的なコンテンツIP(知的財産)展開により持続的な業績成長が期待できるブシロードなどを新規購入しました。

一方、株主還元の拡充に対する株価の織り込みが進んだオリンパスなどを全売却しました。

期末では、持続的な利益成長が期待できるソニーグループ、KADOKAWAなどを組入上位としました。

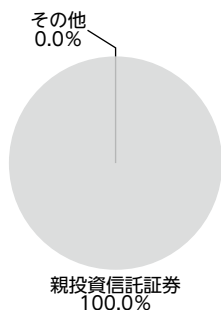
## 当ファンドの組入資産の内容

### ○組入ファンド

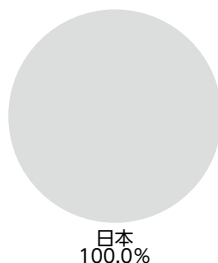
	当期末
	2023年6月21日
ジャパン・グロース マザーファンド	100.0%
その他	0.0%
組入ファンド数	1

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

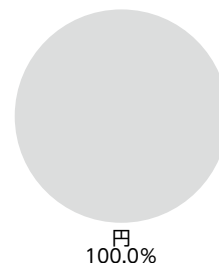
### ○資産別配分



### ○国別配分



### ○通貨別配分

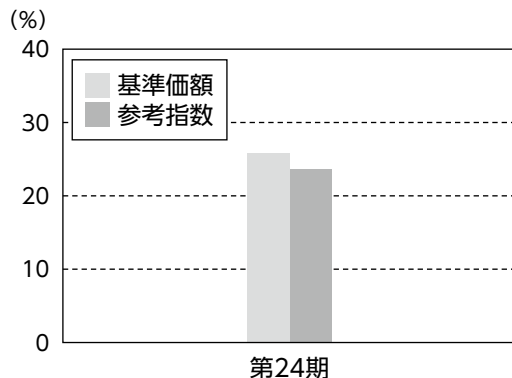


(注) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合、国別配分の比率は組入証券評価額に対する評価額の割合です。その他は未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額(分配金込み)と参考指数の騰落率の対比です。



## 分配金

分配金額は、経費控除後の利子・配当等収益、基準価額水準等を考慮して以下の通りとさせていただきます。なお、収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

(1万口当たり・税引前)

項目	第24期	
	2022年6月22日~2023年6月21日	
当期分配金	(円)	550
(対基準価額比率)	(%)	(3.855)
当期の収益	(円)	550
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	7,814

(注1)「当期の収益」及び「当期の収益以外」は、円未満を切り捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2)当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3)—印は該当がないことを示します。

## 今後の運用方針

徹底した企業調査をベースとして、委託者が独自に利益成長力の高い企業を発掘し、これら銘柄への投資を継続して行います。

# 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	(2022年6月22日~2023年6月21日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	200円	1.650%	(a) 信託報酬＝[期中の平均基準価額]×信託報酬率 期中の平均基準価額は12,098円です。 信託報酬に係る消費税は当(作成)期末の税率を採用しています。 委託した資金の運用、基準価額の計算、開示資料作成等の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(投信会社)	(93)	(0.770)	
(販売会社)	(93)	(0.770)	
(受託会社)	(13)	(0.110)	
(b) 売買委託手数料	10	0.085	(b) 売買委託手数料＝ $\frac{[期中の売買委託手数料]}{[期中の平均受益権口数]} \times 10,000$ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(10)	(0.085)	
(新株予約権証券)	(-)	(-)	
(オプション証券等)	(-)	(-)	
(新株予約権付社債(転換社債))	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(商品)	(-)	(-)	
(先物・オプション)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	-	-	(c) 有価証券取引税＝ $\frac{[期中の有価証券取引税]}{[期中の平均受益権口数]} \times 10,000$ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(-)	(-)	
(新株予約権証券)	(-)	(-)	
(オプション証券等)	(-)	(-)	
(新株予約権付社債(転換社債))	(-)	(-)	
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	1	0.006	(d) その他費用＝ $\frac{[期中のその他費用]}{[期中の平均受益権口数]} \times 10,000$ 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、信託事務の処理等に要するその他諸費用
(保管費用)	(-)	(-)	
(監査費用)	(1)	(0.006)	
(その他)	(-)	(-)	
合計	211	1.741	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。  
なお、売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

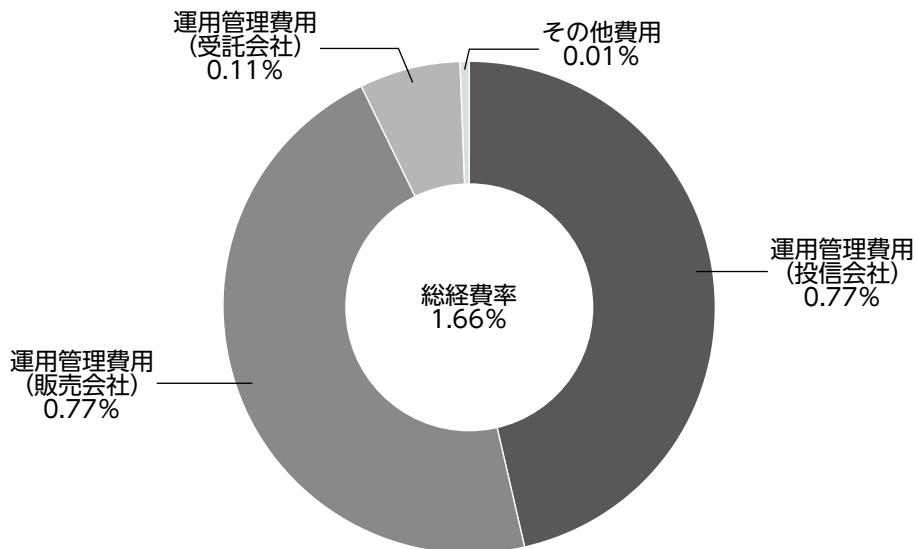
(注3) 「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。



## <参考情報>

### 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.66%です。



(注1)各費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2)各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3)各比率は、年率換算した値です。

(注4)上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 売買および取引の状況

### <親投資信託受益証券の設定、解約状況>

	当 期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ジャパン・グロース マザーファンド	千口 87	千円 275	千口 60,361	千円 215,699

## 株式売買比率

### ■親投資信託の株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

#### <ジャパン・グロース マザーファンド>

項 目	当 期
(a) 当 期 中 の 株 式 売 買 金 額	4,076,345千円
(b) 当 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	2,566,738千円
(c) 売 買 高 比 率(a)／(b)	1.58

(注1) (b)当期中の平均組入株式時価総額は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注2) (c)売買高比率は小数第3位以下を切り捨てております。

## 利害関係人<sup>※</sup>との取引状況等

### ■ 利害関係人との取引状況

区 分	当			期		
	買付額等A	うち利害関係人との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等C	うち利害関係人との取引状況D	$\frac{D}{C}$
金 銭 信 託	百万円 0.000708	百万円 0.000708	% 100.0	百万円 0.000708	百万円 0.000708	% 100.0
コ ー ル ・ ロ ー ン	1,701	203	11.9	1,701	202	11.9

(注) 当該取引に係る利害関係人は、三井住友信託銀行株式会社です。

### < ジャパン・グロース マザーファンド >

区 分	当			期		
	買付額等A	うち利害関係人との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等C	うち利害関係人との取引状況D	$\frac{D}{C}$
金 銭 信 託	百万円 0.005700	百万円 0.005700	% 100.0	百万円 0.005700	百万円 0.005700	% 100.0
コ ー ル ・ ロ ー ン	22,416	2,120	9.5	22,488	2,121	9.4

<平均保有割合 56.7%>

(注1) 平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当ファンドの親投資信託所有口数の割合です。

(注2) 当該取引に係る利害関係人は、三井住友信託銀行株式会社です。

## 組入資産の明細

### < 親投資信託残高 >

	当 期 首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ジャパン・グロース マザーファンド	千口 473,321	千口 413,048	千円 1,637,902

(注) 親投資信託の当期末現在の受益権総口数は、725,536千口です。

※ 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## 投資信託財産の構成

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
ジャパン・グロース マザーファンド	1,637,902	95.4
コール・ローン等、その他	79,012	4.6
投資信託財産総額	1,716,914	100.0

## 資産、負債、元本および基準価額の状況ならびに損益の状況

### ■資産、負債、元本および基準価額の状況

項 目	当 期 末 2023年6月21日現在
(A)資 産	1,716,914,311円
コール・ローン等	14,275,494
ジャパン・グロース マザーファンド(評価額)	1,637,902,085
未 収 入 金	64,736,732
(B)負 債	78,260,416
未 払 収 益 分 配 金	65,707,191
未 払 解 約 金	592
未 払 信 託 報 酬	12,469,045
未 払 利 息	34
そ の 他 未 払 費 用	83,554
(C)純 資 産 総 額(A-B)	1,638,653,895
元 本	1,194,676,201
次 期 繰 越 損 益 金	443,977,694
(D)受 益 権 総 口 数	1,194,676,201口
1万口当たり基準価額(C/D)	13,716円

### ■損益の状況

項 目	当 期 自 2022年6月22日 至 2023年6月21日
(A)配 当 等 収 益	△3,602円
受 取 利 息	12
支 払 利 息	△3,614
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	374,521,926
売 買 益	386,046,542
売 買 損	△11,524,616
(C)信 託 報 酬 等	△25,185,439
(D)当 期 損 益 金(A+B+C)	349,332,885
(E)前 期 繰 越 損 益 金	347,461,604
(F)追 加 信 託 差 損 益 金	△187,109,604
(配 当 等 相 当 額)	(302,533,564)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△489,643,168)
(G) 計 (D+E+F)	509,684,885
(H)収 益 分 配 金	△65,707,191
次 期 繰 越 損 益 金(G+H)	443,977,694
追 加 信 託 差 損 益 金	△187,109,604
(配 当 等 相 当 額)	(302,537,088)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△489,646,692)
分 配 準 備 積 立 金	631,087,298

(注1) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
(注2) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<注記事項>

※当ファンドの期首元本額は1,294,875,053円、期中追加設定元本額は6,072,706円、期中一部解約元本額は106,271,558円です。

※分配金の計算過程

項	目	当	期
(A)	配当等収益額(費用控除後)		22,268,548円
(B)	有価証券売買等損益額(費用控除後・繰越欠損金補填後)		230,972,245円
(C)	収益調整金額		302,537,088円
(D)	分配準備積立金額		443,553,696円
(E)	分配対象収益額(A+B+C+D)		999,331,577円
(F)	期末残存口数		1,194,676,201口
(G)	収益分配対象額(1万口当たり)(E/F×10,000)		8,364円
(H)	分配金額(1万口当たり)		550円
(I)	収益分配金金額(F×H/10,000)		65,707,191円

## 分配金のお知らせ

	当期
1万口当たり分配金	550円

(注)分配金は決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

### 【分配金の課税上の取扱いについて】

- ・収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、

- A. 当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合又は当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、
- B. 当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

- ・課税上の詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めいたします。
- ・税法が改正された場合などは、上記の内容が変更になる場合があります。

## お知らせ

---

該当事項はありません。

# ジャパン・グロース マザーファンド

## 運用報告書

第21期（決算日 2023年6月21日）

当親投資信託の仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は2002年9月20日から無期限です。
運用方針	わが国の株式を中心に投資します。短期的な市場動向に左右されず、独自の調査に基づいたファンダメンタル重視の投資を行い、将来の資産価値極大化をめざした中長期的な視点からの運用を行うことを基本方針とします。
主要運用対象	わが国の株式を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資割合には制限を設けません。

当親投資信託はこのたび上記の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

### 【本運用報告書の記載について】

- ・基準価額は1万口当たりで表記しています。
- ・原則として、数量、額面、金額の表記未满是切捨て、比率は四捨五入で表記しています。
- ・一印は、組入、異動等の該当がないことを示します。
- ・指数に関する著作権等の知的財産権およびその他の一切の権利は指数の開発元もしくは公表元に帰属します。

## 最近5期の運用実績

決算期	基準価額		参考指数		株式先物率 純資産額	株式先物率 純資産額
	円	騰落率	騰落率	騰落率		
第17期(2019年6月21日)	23,292	△14.9	1,545.90	△11.7	94.9	4.0
第18期(2020年6月22日)	26,087	12.0	1,579.09	2.1	95.3	3.2
第19期(2021年6月21日)	32,636	25.1	1,899.45	20.3	95.8	3.9
第20期(2022年6月21日)	31,000	△5.0	1,856.20	△2.3	93.9	3.6
第21期(2023年6月21日)	39,654	27.9	2,295.01	23.6	97.9	—

(注) 株式先物比率は「買建比率－売建比率」で算出しております。

## 当期中の基準価額と市況の推移

年月日	基準価額		参考指数		株式先物率	株式先物率
	円	騰落率	騰落率	騰落率		
(当期首) 2022年 6月21日	31,000	—	1,856.20	—	93.9	3.6
6月末	31,230	0.7	1,870.82	0.8	93.9	3.6
7月末	32,676	5.4	1,940.31	4.5	94.3	3.6
8月末	33,590	8.4	1,963.16	5.8	94.3	3.6
9月末	31,537	1.7	1,835.94	△1.1	93.6	3.6
10月末	33,543	8.2	1,929.43	3.9	96.5	1.4
11月末	34,316	10.7	1,985.57	7.0	97.0	1.4
12月末	31,787	2.5	1,891.71	1.9	96.2	1.5
2023年 1月末	32,868	6.0	1,975.27	6.4	97.2	1.5
2月末	33,074	6.7	1,993.28	7.4	97.2	1.5
3月末	34,183	10.3	2,003.50	7.9	97.0	0.7
4月末	34,623	11.7	2,057.48	10.8	97.5	0.8
5月末	36,788	18.7	2,130.63	14.8	98.0	0.8
(当期末) 2023年 6月21日	39,654	27.9	2,295.01	23.6	97.9	—

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 株式先物比率は「買建比率－売建比率」で算出しております。

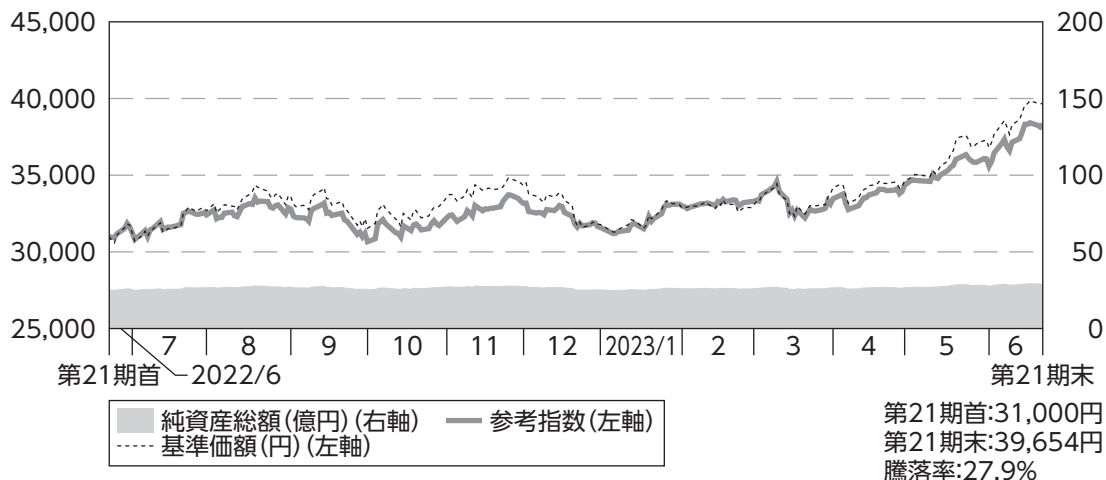
## 参考指数は、TOPIX(東証株価指数)です。

「TOPIX(東証株価指数)」とは、株式会社 J P X 総研が算出、公表する指数で、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。同指数の指数値及び同指数に係る標準又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社(以下「J P X」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び同指数に係る標準又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、同指数の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P X により提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても J P X は責任を負いません。



## 当期中の運用経過と今後の運用方針

### 基準価額等の推移



(注)参考指数は、2022年6月21日の値を基準価額に合わせて指数化しています。

### 基準価額の主な変動要因

当期末の基準価額は、期首比で上昇しました。

期初から2022年末にかけては、堅調な業績動向が確認された銘柄が評価された一方、欧米の金融引き締め長期化や景気減速懸念の高まりが株価のマイナス要因となり、基準価額は上下する展開となりました。2023年に入ると、日銀の金融緩和継続期待の高まりや為替の円安が下支え要因となり堅調に推移しました。期末にかけては、良好な決算を発表した銘柄や、米半導体メーカーの好決算を受けて業績改善期待が高まった銘柄などが評価され、基準価額は上昇基調が続きました。

投資銘柄のうち、半導体のテスト需要の拡大が期待されるアドバンテスト、株主還元の拡充が好感された三菱商事などの株価上昇がプラスに寄与しました。一方、グローバル景気の減速を受けて製品需要に悪影響が生じると懸念されたデクセリアルズ、市場予想を下回る決算が嫌気された日本M&Aセンターホールディングスなどの株価下落がマイナスに影響しました。

## 投資環境



国内株式市場は上昇しました。

期初から2022年後半にかけて、欧米の金融引き締め動向に一喜一憂する展開となりました。年末にかけては、低下基調の米物価指標は好感されたものの、日銀の長期金利変動許容幅拡大が嫌気される展開となりました。2023年に入ると、米金融引き締め長期化懸念の後退や、次期日銀総裁候補が金融緩和継続の方針を示したことが好感され上昇しました。3月には、米地銀の経営破綻を背景に市場心理が悪化する場面がありましたが、各国当局の迅速な対応により事態の深刻化は避けられました。期末にかけては、日銀の金融緩和継続や、為替の円安、堅調な企業決算が市場の下支え要因となり堅調な展開となりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

当期は、電気機器などの構成比を引き上げた一方、サービス業などの構成比を引き下げました。

個別銘柄では、原料高を受けた価格転嫁の進展に伴い業績改善が見込まれる日本ペイントホールディングス、多面的なコンテンツIP(知的財産)展開により持続的な業績成長が期待できるブシロードなどを新規購入しました。一方、株主還元の拡充に対する株価の織り込みが進んだオリンパスなどを全売却しました。

期末では、持続的な利益成長が期待できるソニーグループ、KADOKAWAなどを組入上位としました。

## 当ファンドの組入資産の内容

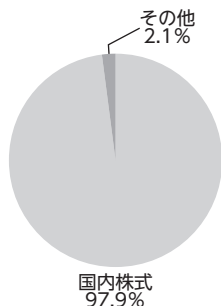
### ○上位10銘柄

順位	銘柄名	国・地域	組入比率
1	ソニーグループ	日本	3.8%
2	KADOKAWA	日本	3.2%
3	ローム	日本	3.1%
4	東宝	日本	2.9%
5	三菱商事	日本	2.8%
6	バンダイナムコホールディングス	日本	2.8%

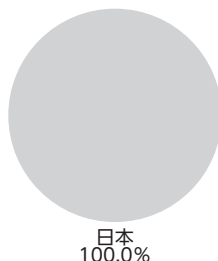
順位	銘柄名	国・地域	組入比率
7	日立製作所	日本	2.6%
8	日本ペイントホールディングス	日本	2.6%
9	MARUWA	日本	2.5%
10	三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本	2.5%
組入銘柄数			62

(注)組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

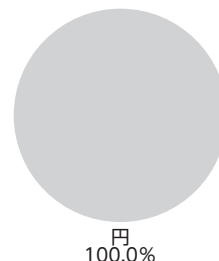
### ○資産別配分



### ○国別配分



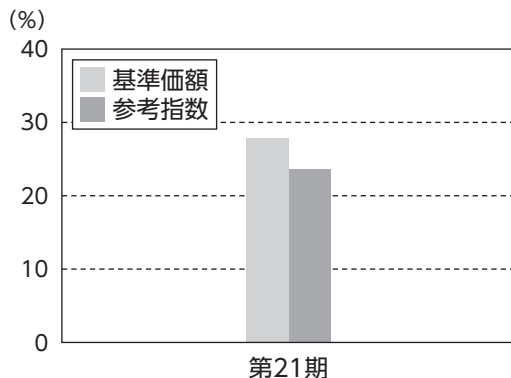
### ○通貨別配分



(注)資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合、国別配分の比率は組入証券評価額に対する評価額の割合です。その他は未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



## 今後の運用方針

徹底した企業調査をベースとして、委託者が独自に利益成長力の高い企業を発掘し、これら銘柄への投資を継続して行います。

## 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	(2022年6月22日~2023年6月21日)		
	金額	比率	
(a) 売買委託手数料 (株式) (新株予約権証券) (オプション証券等) (新株予約権付社債(転換社債)) (投資信託証券) (商品) (先物・オプション)	29円 (28) (-) (-) (-) (-) (-) (0)	0.085% (0.085) (-) (-) (-) (-) (-) (0.000)	(a) 売買委託手数料 = $\frac{[\text{期中の売買委託手数料}]}{[\text{期中の平均受益権口数}]} \times 10,000$ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有価証券取引税 (株式) (新株予約権証券) (オプション証券等) (新株予約権付社債(転換社債)) (公社債) (投資信託証券)	- (-) (-) (-) (-) (-)	- (-) (-) (-) (-) (-)	(b) 有価証券取引税 = $\frac{[\text{期中の有価証券取引税}]}{[\text{期中の平均受益権口数}]} \times 10,000$ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) その他費用  (保管費用)  (監査費用) (その他)	-  (-)  (-) (-)	-  (-)  (-) (-)	(c) その他費用 = $\frac{[\text{期中のその他費用}]}{[\text{期中の平均受益権口数}]} \times 10,000$ 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	29	0.085	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額(33,351円)で除して100を乗じたものです。

## 売買および取引の状況

### <株 式>

		当 期			
		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国内	上 場	千株 752 (121)	千円 1,935,125 (-)	千株 847	千円 2,141,220

(注1)金額は受渡代金です。

(注2) ( )内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

### <先物取引の種類別取引状況>

種 類 別		当 期			
		買 建		売 建	
		新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額
国内	株式先物取引	百万円 174	百万円 273	百万円 -	百万円 -

(注)金額は受渡代金です。

## 株式売買比率

### <株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合>

項 目	当 期
(a) 当 期 中 の 株 式 売 買 金 額	4,076,345千円
(b) 当 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	2,566,738千円
(c) 売 買 高 比 率(a)/(b)	1.58

(注1) (b)当期中の平均組入株式時価総額は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注2) (c)売買高比率は小数第3位以下を切り捨てております。

## 利害関係人<sup>\*</sup>との取引状況等

### ■ 利害関係人との取引状況

区 分	当			期		
	買付額等A	うち利害関係人との取引状況B	B/A	売付額等C	うち利害関係人との取引状況D	D/C
金 銭 信 託	百万円 0.005700	百万円 0.005700	% 100.0	百万円 0.005700	百万円 0.005700	% 100.0
コ ー ル ・ ロ ー ン	22,416	2,120	9.5	22,488	2,121	9.4

(注)当該取引に係る利害関係人は、三井住友信託銀行株式会社です。

<sup>\*</sup> 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細

<国内株式(上場株式)>

銘柄	当期首(前期末)		
	株数 (千株)	株数 (千株)	評価額 (千円)
<b>建設業(1.6%)</b>			
日揮ホールディングス	14	24.7	45,769
<b>食料品(2.4%)</b>			
寿スピリッツ	6.7	6.2	67,394
<b>繊維製品(ー%)</b>			
ワコールホールディングス	5.9	ー	ー
ゴールドウイン	1.5	ー	ー
<b>化学(10.6%)</b>			
クラレ	ー	36.3	50,947
日産化学	7.1	ー	ー
クレハ	5.2	ー	ー
信越化学工業	4.1	12.5	59,137
三菱ケミカルグループ	39.6	ー	ー
トリケミカル研究所	7.8	21.2	56,540
日本ペイントホールディングス	ー	62.8	75,014
富士フィルムホールディングス	7.2	3.2	27,619
デクセリアルズ	16	ー	ー
ニフコ	13.9	7.3	28,594
<b>医薬品(4.0%)</b>			
ロート製薬	ー	14.1	47,249
第一三共	17.5	13.7	64,568
<b>ガラス・土石製品(2.6%)</b>			
MARUWA	2	3.5	73,290
<b>非鉄金属(1.2%)</b>			
住友金属鉱山	ー	7.1	33,646
アサヒホールディングス	8.6	ー	ー
<b>金属製品(ー%)</b>			
横河ブリッジホールディングス	13.4	ー	ー
<b>機械(5.9%)</b>			
芝浦機械	ー	11.6	53,940
DMG森精機	23.2	ー	ー
島精機製作所	7.7	ー	ー
ハーモニック・ドライブ・システムズ	ー	5.9	28,851
ダイフク	6.4	7.1	21,846
三菱重工業	5.7	5.4	37,195
IHI	ー	6.6	25,984
<b>電気機器(24.6%)</b>			
イビデン	ー	7.2	58,312
日立製作所	10.3	8.6	75,929
湖北工業	1.8	ー	ー
オムロン	ー	4.5	40,009

銘柄	当期首(前期末)		
	株数 (千株)	株数 (千株)	評価額 (千円)
富士通	2	ー	ー
ソニーグループ	6.3	8.1	109,107
TDK	ー	7.3	40,734
日本電波工業	11.5	17.1	22,059
メイコー	14	ー	ー
アドバンテスト	ー	2.8	55,706
キーエンス	0.9	1	69,870
シスメックス	ー	4.4	43,810
メガチップス	11.7	ー	ー
ローム	3.5	6.6	89,595
村田製作所	5.4	6	49,800
東京エレクトロン	ー	1.9	39,064
<b>輸送用機器(1.5%)</b>			
スズキ	ー	8.5	42,551
<b>精密機器(ー%)</b>			
島津製作所	5.5	ー	ー
オリンパス	26.5	ー	ー
<b>その他製品(5.3%)</b>			
ブシロード	ー	80.6	70,041
バンダイナムコホールディングス	6.1	23.1	79,256
タカラトミー	14.1	ー	ー
ヨネックス	7.3	ー	ー
アシックス	10.6	ー	ー
<b>陸運業(2.4%)</b>			
富士急行	10.7	12.7	67,056
<b>情報・通信業(15.7%)</b>			
コーエーテクモホールディングス	7.1	11.1	27,128
SHIFT	0.6	1.9	52,183
インターネットイニシアティブ	5	7.4	20,842
野村総合研究所	ー	8.5	34,170
オービック	2.1	1.5	35,250
伊藤忠テクノソリューションズ	8.8	ー	ー
東映アニメーション	1.6	0.6	8,448
ANYCOLOR	ー	1.4	11,858
USEN-NEXT HOLDINGS	ー	5	17,400
KADOKAWA	17.1	26	92,742
東宝	7.2	15.2	83,600
スクウェア・エニックス・ホールディングス	8.5	1.6	11,942
コナミグループ	3.3	6.3	47,224
<b>卸売業(6.3%)</b>			
神戸物産	8.1	5.6	20,753

銘柄	当期首(前期末)	当 期 末	
	株 数 (千株)	株 数 (千株)	評 価 額 (千円)
伊藤忠商事	18.5	7.4	42,039
三菱商事	11.4	11.1	80,142
サンリオ	6.7	—	—
加賀電子	7.6	5.4	34,020
<b>小売業(4.9%)</b>			
J. フロント リテイリング	22.5	29.1	41,176
ZOZO	—	7.1	21,307
シュッピン	18.4	—	—
ネクステージ	20.4	—	—
コスモス薬品	1.6	—	—
バン・パンフィック・インター ナショナルホールディングス	—	21.2	53,477
ケーヨー	21.9	—	—
日本瓦斯	27.9	11.1	21,789
<b>銀行業(4.1%)</b>			
三菱UFJフィナンシャル・グループ	—	72.1	71,797
三井住友フィナンシャルグループ	—	7.3	43,303
<b>保険業(1.5%)</b>			
東京海上ホールディングス	10	12.7	42,024
<b>その他金融業(—%)</b>			
プレミアグループ	8.5	—	—

銘柄	当期首(前期末)	当 期 末		
	株 数 (千株)	株 数 (千株)	評 価 額 (千円)	
<b>不動産業(1.6%)</b>				
SREホールディングス	—	10.7	44,405	
サンフロンティア不動産	16.4	—	—	
<b>サービス業(3.8%)</b>				
日本M&Aセンターホールディングス	—	15.1	16,610	
サイバーエージェント	33.2	—	—	
楽天グループ	53.2	—	—	
E R Iホールディングス	17.8	—	—	
リクルートホールディングス	8.3	5.2	24,315	
リログループ	—	21.5	43,849	
TREホールディングス	6.2	—	—	
共立メンテナンス	10	1.5	8,662	
ダイセキ	6.3	3.7	15,022	
合 計	株 数 ・ 金 額	757	783	2,817,972
	銘柄数<比率>	68	62	<97.9%>

(注1)銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注2)合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率です。

## 投資信託財産の構成

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株 式	千円 2,817,972	% 95.8
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	123,793	4.2
投 資 信 託 財 産 総 額	2,941,765	100.0

## 資産、負債、元本および基準価額の状況ならびに損益の状況

### ■資産、負債、元本および基準価額の状況

項 目	当 期 末 2023年6月21日現在
(A)資 産	2,941,765,303円
コーポレートローン等	63,231,112
株式(評価額)	2,817,972,280
未収入金	42,210,219
未収配当金	18,351,692
(B)負 債	64,737,409
未払解約金	64,737,255
未払利息	154
(C)純資産総額(A-B)	2,877,027,894
元 本	725,536,968
次期繰越損益金	2,151,490,926
(D)受益権総口数	725,536,968口
1万口当たり基準価額(C/D)	39,654円

### ■損益の状況

項 目	当 期 自 2022年6月22日 至 2023年6月21日
(A)配 当 等 収 益	43,979,797円
受 取 配 当 金	44,017,717
受 取 利 息	452
そ の 他 収 益 金	2,457
支 払 利 息	△40,829
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	628,505,980
売 買 益	736,762,268
売 買 損	△108,256,288
(C)先 物 取 引 等 取 引 損 益	6,443,350
取 引 益	7,772,750
取 引 損	△1,329,400
(D)当 期 損 益 金 (A+B+C)	678,929,127
(E)前 期 繰 越 損 益 金	1,729,094,198
(F)追 加 信 託 差 損 益 金	21,728,105
(G)解 約 差 損 益 金	△278,260,504
(H)計 (D+E+F+G)	2,151,490,926
次 期 繰 越 損 益 金 (H)	2,151,490,926

(注1) (B)有価証券売買損益および(C)先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

#### <注記事項>

※当ファンドの期首元本額は823,372,184円、期中追加設定元本額は9,766,853円、期中一部解約元本額は107,602,069円です。

※当ファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額は次の通りです。

ジャパン・グロース・ファンド	413,048,390円
財産四分法ファンド(毎月決算型)	308,257,628円
ジャパン・グロース・ファンドVA1(適格機関投資家専用)	4,230,950円

## お知らせ

該当事項はありません。